

平成25年度

NO.7

10月31日発行

11月号

# 仲町だより

なかよく

まなぼう

ちからいっぱい

練馬区立仲町小学校

## 人のことも考えよう

副校長 檜垣盛喜

「人間は、人の間と書く。つまり、人間は人と人の間でしか生きられない。みんな誰かの支えがあって生きているのである。」

引用：「人生ノート」野村克也

確かにこの世の中、自分一人だけで生きていくことはできません。たくさんのひととの関わりの中で周りの支えがあったからこそ、今の自分があると強く思います。また、今現在もたくさんの方々のおかげで日々の生活を送ることができていると思っています。

学校の中で、子供たちはたくさんの人と関わりをもって生活しています。その中で、残念なことですが、友だちにいじわるをしたり、嫌なことを言ったりすることで、トラブルになることがあります。そのことにより、イライラが続き、勉強に集中できない、人にあたってしまうなど悪循環が起きてしまいます。このところ子供たちの様子が気になるので、全校朝会の中で、子供たちに次の2点を呼びかけてみました。

- ・人のために役立つことをしよう
- ・人が喜ぶことを言おう

仲町小学校には、772人というたくさんの子供たちがいます。一人一人の子供たちが1日に1回でもそういった行動ができれば、最低でも772人の子供たちが気持ちよく過ごせるはずです。2回できれば、その倍です。された人は、気持ちが安定し、人にも優しくなれるのではないかと思います。そういったよい循環が期待できます。みんなが気持ちのよい学校生活を送るために、仲町小学校の子供たちに、自分のことだけでなく他人のことも考えた言動をとれるように頑張ってもらいたいと思います。その中で、人の役に立つ喜び、人を支える喜び、心地よさなどを感じてくれれば嬉しいかぎりです。

5年生の教室前の掲示板に「豊かな言葉の使い手」として素敵なカードが掲示してありました。

- ・言葉で人を笑顔にする
- ・言われたらうれしい言葉が言える
- ・人を喜ばせる言葉
- ・言葉に想いをこめる人

このような言葉の使い手は、人のことをよく考えている人です。このような子供たちが増えてくることを期待します。